

律法は私たちが罪から救うことはできないが、イエスは私たちが罪から救うことができる

おはようございます。キリストにある、愛する兄弟姉妹にメッセージをする機会を与えてくださった神と YIBC の長老たちに感謝いたします。今日はマルコの福音書の学びを続けます。この数週間で見てきたように、イエスは律法学者やファリサイ派の人々と、罪を赦す力、罪人や徴税人と交わり、食事をする事、断食など、さまざまな宗教上の問題をめぐって対立を繰り返してきました。イエスは、当時のユダヤ人たちに、自分たちの中にもっと偉大なものが現れたことを示していました。より偉大な方が彼らの前に来られたのです。イエスは罪を赦すことのできる、「人の子」です。イエスは、病人と罪人のために来られた大いなる医者です。イエスは、古いものを新しいものに取り替え、いつか取り去られる、(聖書の中に約束された) 祝福された花婿なのです。

これから、イエスとイスラエルの宗教指導者たちとの一連の対決のクライマックスを見て行きます。今日の聖書箇所は、マルコの福音書 2:23 から 3:6 までです。なぜ、2章から3章に、違う章に移るのか不思議に思われる方もおられるかもしれません。後述するように、聖霊を受けた著者マルコは、この2つの記述を一緒に読まれることを意図していました。(本日の聖書箇所を二つに分けると) 前半の部分は、特に安息日と律法全般に対するイエスの解釈と、その律法とイエスの関係性を示しています。後半の部分は、イエスの教えが真に意味することを、イエスが力強く示し、実際にイエス自身の行いを通じて、教えを(日々の生活に)適用しています。イエスは、安息日と律法についてのファリサイ派の人々の間違った解釈を明らかに非難しています。そして、ファリサイ派の人々がもうイエスを容認できないと考えていることが、この箇所の最後で明らかになっています。この二つの事実は、「**律法は私たちが罪から救うことはできないが、イエスは私たちが罪から救うことができる**」という素晴らしい真実を指し示しているのです。

それでは**マルコの福音書2:23-28**を見て行きましょう。²³ ある安息日に、イエスが麦畑を歩いておられたときのことである。弟子たちは、道を進みながら穂を摘み始めた。²⁴ すると、パリサイ人たちがイエスに言った。「ご覧なさい。なぜ彼らは、安息日にはしてはならないことをするのですか。」²⁵ イエスは言われた。「ダビデと供の者たちが食べ物がないとき、ダビデが何をしたら、読んだことがないのですか。」²⁶ 大祭司エブヤタルのころ、どのようにして、ダビデが神の家に入り、祭司以外の人々が食べてはならない臨在のパンを食べて、一緒にいた人たちにも与えたか、読んだことがないのですか。」²⁷ そして言われた。「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません。²⁸ ですから、人の子は安息日にも主です。」マルコは、この出来事が週の最後の日、ユダヤ教の安息日に起きたと書いています。イエスがある麦畑の中を歩いており、2つのグループがついて来ていました。ひとつは、イエスがついてくるようにといったイエスの弟子たちです。もう一つのグループは、全く異なる理由でイエスについてきた人々です。彼らはファリサイ派の人々で、これまで見てきたように、ガリラヤから来たこの人気のある教師、イエスを憎んでいました。彼らにとって、イエスは偽の教師であり、神を冒瀆する者でした。だからこそ、彼らは、この麦畑でもイエスの後を追いついて、イエスを非難し、信用を失墜させる機会を伺っていました。そしてついに、彼らはその機会を得たのです。23節には、「**弟子たちは、道を進みながら穂を摘み始めた**」と書かれています。ファリサイ派の人々はすぐにこれを見て、イエスを、「**ご覧なさい。なぜ彼らは、安息日にはしてはならないことをするのですか。**」と非難し始めました。弟子たちがしたことは、(モーセの律法上は) 何も悪いことではないのです。古代イスラエルでは、他人の畑を歩いていて空腹になった場合、その畑の作物の一部を取ってきて自分で食べることができました。一定の制限の下ではありましたが、モーセの律法はそのような行為を認めていました。申命記23:25には次のように書かれています。²⁵ 隣人の麦畑の中に入ったとき、あなたは穂を手で摘んでもよい。しかし、隣人の麦畑で鎌を使ってはならない。麦畑を全部、鎌で収穫しない限り、盗みとは考えられていませんでした。つまり、ファリサイ派の人々は、弟子たちの行為そのものが違法であることを指摘していたのではなく、そのタイミングが間違っていたことを非難したのです。彼らは、イエスの弟子たちが安息日に穀物を収穫したことによって、彼らは仕事をしたと、解釈しました。つまり、第四の戒め(安息日の戒め)を破ったことになると考えたのです。出エジプト記20:8-10で、神はイスラエルに第四の戒めを与えています。⁸ 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。⁹ 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。

¹⁰ 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。律法を教え、人々に守らせる立場にあるとみなされたファリサイ派の人々は、第四の戒めを厳格に解釈し、安息日にいかなる種類の仕事もしてはならないと考えていました。イエスの時代には、すでに、ユダヤ教の宗教的伝統に、何が安息日に仕事とみなされ、仕事とみなされないかの長いリストが作られていました。ファリサイ派の人々にとっては、イエスの弟子たちはユダヤ教の律法を破る犯罪者であり、彼らの主人であるイエスは、その犯罪行為を扇動している人でした。では、イエスは彼らの非難にどのように応答したのでしょうか？イエスの応答は三つのセクションに分けることができます。第一のセクションは25-26節にあります。イエスは律法の教師であるファリサイ派の人々に、聖句を使って応答しています。²⁵ イエスは言われた。「ダビデと供の者たちが食べ物がなく空腹になったとき、ダビデが何をしたか、読んだことがないのですか。²⁶ 大祭司エブヤタルのころ、どのようにして、ダビデが神の家に入り、祭司以外の人が食べてはならない臨在のパンを食べて、一緒にいた人たちにも与えたか、読んだことがないのですか。」イエスはファリサイ派の人々にサムエル記上21:1-6で起きたことを思い起こさせています。ダビデは自分を殺そうとするサウル王から逃れ、部下たちとともに幕屋のあるノブの町に向かいました。ダビデは、自分の部下たちが空腹だったので、祭司に食べ物を求めました。サムエル記上21:6に次のように書かれています。⁶ 祭司は彼に、聖別されたパンを与えた。そこには、温かいパンと置き換えるために、その日主の前から取り下げられた、臨在のパンしかなかったからである。ダビデとその部下たちはそのパンを食べました。しかし、モーセの律法は、臨在のパンについて次のように規定しています。レビ記 24:8-9、⁸ 彼は安息日ごとに、これを主の前に絶えず整えておく。これはイスラエルの子らによるささげ物であって、永遠の契約である。⁹ これはアロンとその子らのものとなり、彼らはこれを聖なる所で食べる。これは最も聖なるものであり、主への食物のささげ物のうちから、永遠の定めにより彼に与えられた割り当てだからである。」ここに書かれているように、臨在のパンは祭司たちが食べるものであり、祭司たちに与えられた割り当てなのです。

では、ここで、イエスは私たちが善を行うために神の掟を破ることが許されるといっているのでしょうか？イエスは、善いことや必要なことをするためには、神の律法に背くことが許されるといっているのでしょうか？決してそうではありません。イエスが神の律法に背くことを自ら勧めることは過去にありませんでしたし、これからもないでしょう。イエスがここで非難したのは、律法に対してファリサイ派の人々が取っていた外面的であり、表面的な服従の在り方だったのです。ファリサイ派の人々は、偽善者であり、「律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実をおろそかにしてい」（マタイの福音書 23:23）たのです。イエスは、正しい心で律法の精神を全うすることを求めているのです。これこそが真の従順のあり方なのです。ダビデとその部下たちには、真の従順さがありました。同じ出来事に関するマタイの記述では、ファリサイ派の人々に対するイエスの返答がはっきりと示されています。マタイの福音書 12:3-5、³ しかし、イエスは言われた。「ダビデと供の者たちが空腹になったときに、ダビデが何をしたか、⁴ どのようにして、神の家に入り、祭司以外は自分も供の者たちも食べてはならない、臨在のパンを食べたか、読んだことがないのですか。⁵ また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日を汚しても咎を免れる、ということを律法で読んだことがないのですか。祭司たちが安息日に神殿で働いても罪とならないのと同じように、イエスの目から見れば、ダビデとその部下たちも臨在のパンを食べても罪とはならなかったのです。そのパンは律法によって彼らに与えられたものではありませんでしたが、彼らがそれを受け取り食べたとき、律法を破ったという罪にはあたりませんでした。神は、幕屋から聖なるパンを与えることによって、ダビデとその部下たちの肉体的な必要性（空腹）を満たしたのです。27節でイエスは「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたものではありません」と宣言しています。これがイエスの応答の二つ目のセクションであり、このイエスの宣言は、マルコの福音書にのみ記録されているもので、マタイやルカの福音書には記されていません。安息日はユダヤ人に肉体的な休息と霊的なりフレッシュをもたらす日として、神がもうけたものであるにも関わらず、安息日をユダヤ人たちの重荷にしているファリサイ派の人々を、イエスはここで非難しています。イエスはファリサイ派の人々について、次のようにマタイの福音書 23:4 で言われています。また彼らは、重くて負いきれない荷を束ねて

人々の肩に載せるが、それを動かすのに自分は指一本貸そうともしません。ファリサイ派の人々は、安息日を神の祝福と人間の休息をえる機会とするのではなく、逆に人間を安息日に関する規則と他のさまざまな規則に隷属させました。イエスはファリサイ派の人々のこのような律法主義、つまり外面的で表面的な善行、独善、墮落した心、すなわち彼らの偽りの宗教を非難しました。

イエスは応答の最後となる第三のセクションで、「人の子」として、自分と安息日との関係を明らかにしています。28節では「**ですから、人の子は安息日にも主です。**」と言われました。これまで、イエスは罪を赦す権威があると主張していました。今度は、イエスは安息日と律法の上にも自分の権威があると主張しているのです。イエスは、ご自分がモーセの律法よりも偉大で強力であると宣言しています。これは、ファリサイ派の人々の非難に対するイエスの究極の応答なのです。論理的に考えれば、このイエスの応答はとても奇妙なものです。イエスは、自分が安息日の主でもあるから、弟子たちが安息日に穀物を摘み取っても律法に背いていない、と主張しているのですから。イエスは、弟子たちを擁護するために、彼らがしたことは仕事とは見なされないと主張することもできたでしょう。あるいは、安息日が人間のために造られたと、説明することもできたでしょう。どちらの議論を展開しても、すぐに人々の賛同を得ることができたに違いありません。しかし、彼らの主人であるイエスはそのどちらの議論も展開せず、「イエスは安息日にも主である」という究極の理由を宣言しているのです。この宣言が弟子たちやファリサイ派の人々、そしてイエスについてきた群衆にとってどのような意味を持つのか、イエスご自身が示されているのでその箇所を見ていきましょう。

それでは、この一連の対決の最後で、第五の対決へと話を進めていきましょう。私たちは、安息日と律法との関係性についてのイエスの教えを聞くだけでなく、それをすべての人々の前で力強く示し、適用するイエスの姿をこの箇所で見ます。マルコの福音書 3:1-6 に、そのクライマックスが示されています。¹ **イエスは再び会堂に入られた。そこに片手の萎えた人がいた。** ² **人々は、イエスがこの人を安息日に治すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。** ³ **イエスは、片手の萎えたその人に言われた。「真ん中に立ちなさい。」** ⁴ **それから彼らに言われた。「安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも殺すことですか。」** 彼らは黙っていた。 ⁵ **イエスは怒って彼らを見回し、その心の頑なさを嘆き悲しみながら、その人に「手を伸ばしなさい」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は元どおりになった。** ⁶ **パリサイ人たちは出て行ってすぐに、ヘロデ党の者たちと一緒に、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。**

再び安息日となり、イエスはシナゴグ（ユダヤ教の会堂）にいました。ファリサイ派の人々も、また、その場において、（イエスを非難する）次の機会を狙っていました。彼らは、今度こそイエスが安息日の律法を破り、萎えた手を持つ男を癒すかもしれない、と思っていました。そこでイエスがその人に来るように呼びかけると、彼はやってきました。そして、イエスは「**安息日に律法にかなっているのは、善を行うことですか、それとも悪を行うことですか。いのちを救うことですか、それとも殺すことですか。**」とファリサイ派の人々に尋ねました。イエスは、ついに、ファリサイ派の人々がご自身の非難に使う質問を、逆に彼らに向けられました。今度はファリサイ派の人々がイエスの質問に答えるように仕向けたのです。難しい質問ではありませんでした。明白な答えは、善を行い、命を救うことでした。どのような日であっても、たとえ安息日であっても、善を行い、命を救うことは、常に律法に適った行為であるはずで、害をなすことや殺すことは、いつであろうと律法に反することは明らかです。しかし、ファリサイ派の人々は、黙っていました。この彼らの沈黙は、彼らの頑なで、墮落した心を明らかにしました。彼らの沈黙は、律法主義的な考え方によって、彼らが律法を誤解し、誤った形で適用していたことをあらわにしました。**イエスは怒って彼らを見回し、その心の頑なさを嘆き悲しまれました。**ファリサイ派の人々の沈黙の中で、安息日の主である人の子は、その男にその萎えた手を伸ばすように命じ、彼は従い、その手は癒されました。**イエスは安息日に、貧しくても、謙虚で従順な人を癒しました。**

これは、イエスが人の子として安息日の主でもあると言われたことの意味を証明する行為でした。ファリサイ派の人々に対するイエスの究極的な応答は、自分が安息日の主であり、律法よりも偉大な存在であることを宣言しただけでなく、安息日にこの素晴らしい奇跡を起こして、ご自分の力を証明したのです。マルコのこの二つの記述は、私たちに、「**律法は私たちを罪から救うことはできないが、イエスは私たちを罪から救うことができる**」という包括的な真理を指し示しているのです。安息日は、一時的な肉体的休息を与えてくれますが、イエスだけが真の霊的休息と永遠の休息を与えることができます。これまで見てきたように、律法は祭司や野原を旅する人々に食物を提供することはできません。しかし、イエスは、私たちの霊的な必要性和飢えを満たすために父から遣わされた命のパンそのものなのです。律法も安息日も、病人を癒すことはできません。さらに重要なことは、律法は罪人を義とし、救うことはできないという点です。ファリサイ派の人々は、律法に従った行い（善行）をすれば神の目から見て義とされると信じ、それを人々に教えていました。この点で、彼らは完全に間違っていたのです。イエスを信じる信仰だけが、神の御前で私たちを義としてくれるのです。

律法は私たちを罪から救うことはできないが、イエスだけが私たちを罪から救うことができるという真実を受け止めるのであれば、私たちは常にイエスに立ち返るべきなのです。私たちは自分自身の律法主義的な考えを悔い改めなければならない。独善的で自己中心であったことを神に告白し、赦しを求めましょう。教会や日曜学校に出席すること、個人的に聖書を読むこと、伝道することなど、霊的な活動を、律法主義的な考え（善行をすれば神の御前で義とされるという考え）から行なっていないでしょうか。私たちはすでに救われているのですから、これらのことをするのは、救われるためでも、神との関係を正しくするためでもないことを、思い起こさなければならないのです。私たちの主であり救い主への愛と感謝から、従順にそれらを実践すべきなのです。私たちは教会として、私たちの救いのために十字架上でキリストが十分な御業をなさったことを、互いに、また外部の人々に対して、指し示してきたでしょうか。それとも、私たちは無意識のうちに、何らかの善行を行えば救われるというこれまでの考えに戻ってしまっていないでしょうか。私たちは互いに正し、気をつけなければならないのです。

この箇所の最後で、ファリサイ派の人々はイエスに激怒し、彼らが最も嫌っていた政治グループであるヘロデ王の支持者たちと同盟を結んだことがわかります。これはマルコの福音書の一つの転換点となります。ここから先、ファリサイ派の人々はまだイエスに着いてはいきますが、イエスの殺害を企てるようになるのです。彼らはイエスに害を加え、殺すことを決めたのです。それに対して、イエスは善を行い、自らの命を捨てることによって、他の人たちの命を救うために来られたのです。私たちは今日、キリストに忠実な真の信者でしょうか？弟子たちと萎えた手の人はへりくだり、イエスの言葉を聞き、それに従いました。私たちも謙虚に、愛をもって、喜びをもって、忠実に、主であり救い主の命令を求め、従っているでしょうか？それとも、無関心になったり、怠惰になったりしていないでしょうか？霊的な眠りや怠惰から目を覚ましてください。安息日の主は、私たちにも善を行い、命を救うように命じておられるのです。もし、あなたがここにいて、まだイエスに従っていないなら、イエスのもとに来て、癒されるようにというイエスの呼びかけに耳を傾けてください。心をかたくなにせず、罪を悔い改め、イエスのもとに来て、イエスを信じてください。あなたの善行であなた自身を救うことはできません。イエスだけがあなたを救えるのです。祈りましょう。

Mark 2:23-3:6 Jesus Can Save What the Law Cannot

Good morning, church. I want to express my gratitude to God and to our elders for giving me this opportunity to preach to beloved brothers and sisters in Christ.

Today we will be continuing our study of the gospel of Mark. As we have seen in the past weeks, Jesus has been clashing with the scribes and the Pharisees over different religious matters: the authority to forgive sins, eating and associating with sinners and tax collectors, and fasting. Jesus has been displaying to the Jews of his time that something greater has come in their midst. Someone greater is before them. Jesus is the Son of Man who can forgive sins. Jesus is the Great Physician who has come for the sick and for sinners. Jesus is the celebrated Bridegroom who will replace the old with the new and will one day be taken away.

This morning we will be looking at the climax of this series of confrontations between Jesus and the religious leaders of Israel. This is found in Mark 2:23 to 3:6. Now some of you may wonder why we are crossing over to the next chapter. As we will see, the biblical author Mark inspired by the Holy Spirit clearly intended these two accounts to be read together, one after the other. The first one shows Jesus' understanding of the Sabbath in particular and the whole Law in general, and His relationship with it. The second account is a powerful display and application by Jesus of what His teaching truly meant. Jesus rebukes the Pharisees for their wrong understanding of the Sabbath and the Law. And it will be evident by the last verse of our passage that the Pharisees will not tolerate Jesus anymore. Both of these accounts should point us to this wonderful truth: **Jesus can save what the Law cannot.**

So let us first read **Mark 2:23-2:28**: ²³ One Sabbath he was going through the grainfields, and as they made their way, his disciples began to pluck heads of grain. ²⁴ And the Pharisees were saying to him, "Look, why are they doing what is not lawful on the Sabbath?" ²⁵ And he said to them, "Have you never read what David did, when he was in need and was hungry, he and those who were with him: ²⁶ how he entered the house of God, in the time of Abiathar the high priest, and ate the bread of the Presence, which it is not lawful for any but the priests to eat, and also gave it to those who were with him?" ²⁷ And he said to them, "The Sabbath was made for man, not man for the Sabbath. ²⁸ So the Son of Man is lord even of the Sabbath." So Mark reports it was the last day of the week, the Jewish Sabbath. Jesus was making his way through some field, and two groups of people were following him. The first was his disciples whom he called to follow him. The other group of people mentioned here was following Jesus for very different reasons. They were the Pharisees, and as we have seen, they do not like this popular teacher from Galilee. For them, Jesus was a false teacher and a blasphemer. So they keep following him, even through this grainfield, waiting for opportunities to accuse and discredit him. Finally, they get another one. Verse 23 says, "**as they made their way, his disciples began to pluck heads of grain**". The Pharisees were quick to catch this: so they throw out their charge at Jesus: "**Look, why are they doing what is not lawful on the Sabbath?**" Now there was nothing wrong with what the disciples did. In ancient Israel, when you go through someone else's field, and you go hungry, you may get some of the field's produce and feed yourself. The law of Moses allowed such an activity but with certain limitations. We can read that in **Deuteronomy 23:25**: **If you go into your neighbor's standing grain, you may pluck the ears with your hand, but you shall not put a sickle to your neighbor's standing grain.** It would not be stealing, so long as you don't harvest the whole field. So the Pharisees did not point out the activity itself being unlawful, it was the timing that was wrong for them. In their view,

Jesus' disciples harvested grain on the Sabbath—they broke the fourth commandment by doing work on the Sabbath. In [Exodus 20:8-10](#), God gives Israel the fourth commandment: [8 Remember the Sabbath day, to keep it holy. 9 Six days you shall labor, and do all your work, 10 but the seventh day is a Sabbath to the Lord your God. On it you shall not do any work, you, or your son, or your daughter, your male servant, or your female servant, or your livestock, or the sojourner who is within your gates.](#)

The Pharisees, considered teachers and guardians of the Law, strictly interpreted and taught the fourth commandment meant that no one is to do any kind of work on the Sabbath. By Jesus' time, Jewish religious tradition already included a long list of what was considered work and not work on the Sabbath. For the Pharisees, the disciples of Jesus are law-breakers and their master is promoting lawlessness and disobedience to God's commandments. So how did Jesus respond to their accusing question? We can see Jesus offered them a three-part answer.

The first part we see in verses 25-26: Jesus throws back Scripture at these supposedly teachers of Israel. [And he said to them, "Have you never read what David did, when he was in need and was hungry, he and those who were with him: ²⁶ how he entered the house of God, in the time of Abiathar the high priest, and ate the bread of the Presence, which it is not lawful for any but the priests to eat, and also gave it to those who were with him?"](#)

Jesus points the Pharisees to [1 Samuel 21:1-6](#). David is fleeing from King Saul who is trying to kill him, and he and his men go to the town of Nob where the tabernacle was. He asked the priest for food for he and his men were hungry. We read in [1 Samuel 21:6](#): [So the priest gave him the holy bread, for there was no bread there but the bread of the Presence.](#) David and his men ate that bread. However, the law of Moses instructs regarding the bread of the Presence: [8 Every Sabbath day Aaron shall arrange it before the LORD regularly; it is from the people of Israel as a covenant forever. 9 And it shall be for Aaron and his sons, and they shall eat it in a holy place, since it is for him a most holy portion out of the LORD's food offerings, a perpetual due. \[Leviticus 24:8-9\]](#) The bread of Presence was meant to be consumed by the priests—it is their assigned portion.

Now we may ask, is Jesus saying that sometimes we may break God's law to do good? Was Jesus reasoning that we are allowed to disobey God's commandments in order to do something good or necessary? We should not think so! Jesus was not and will never advocate any kind of disobedience to God's law. What Jesus was rebuking here is mere external obedience to the letter of the law. The Pharisees were hypocrites who ["neglected the weightier matters of the law: justice and mercy and faithfulness"](#) ([Matt 23:23](#)). **Jesus points to fulfilling the spirit of the law with a right heart. That is true obedience.** David and his men were guiltless. In Matthew's account of the same event, he relays Jesus' reply to the Pharisees: [3 He said to them, "Have you not read what David did when he was hungry, and those who were with him: 4 how he entered the house of God and ate the bread of the Presence, which it was not lawful for him to eat nor for those who were with him, but only for the priests? 5 Or have you not read in the Law how on the Sabbath the priests in the temple profane the Sabbath and are guiltless? Matthew 12:3-5.](#) In the same way that the priests do work in the temple on the Sabbath but remain guiltless, in Jesus' eyes, David and his men were also guiltless. The bread was not assigned to them by the law yet they were not guilty of breaking the law when they received and ate it. God sustained the lives of David and his men by providing them holy bread from the tabernacle.

Jesus then declares in verse 27, ["The Sabbath was made for man, not man for the Sabbath."](#) This second part of Jesus' response is unique to Mark's gospel—we do not see

this recorded in Matthew's or Luke's account of the event. Jesus rebukes the Pharisees for making the Sabbath a heavy burden on the Jewish people when it should have given them physical rest and spiritual refreshment. Jesus says of the Pharisees: "They tie up heavy burdens, hard to bear, and lay them on people's shoulders" (Matt 23:4). They have reversed the order: instead of upholding the Sabbath as God's blessing and provision for man, they made man a slave to man-made rules and restrictions regarding the Sabbath. **Jesus rebukes the legalism of the Pharisees—their false religion of external good works, self-righteousness, and corrupt hearts.**

In the third and last part of his reply, Jesus reveals His relationship to the Sabbath as the Son of Man: verse 28, "So the Son of Man is lord even of the Sabbath." Previously, Jesus claimed to have the authority to forgive sins. Now Jesus is claiming to have authority even over the Sabbath and its laws. Jesus is declaring Himself to be greater and more powerful than the Law of Moses. This was Jesus' ultimate reply to the Pharisees' accusation. Logically, it seems such an odd ultimate reply: the disciples did not break the law when they plucked grain on the Sabbath because "Jesus is lord even of the Sabbath." Jesus could have defended the disciples and reasoned that what they did was not considered work. Or He could expanded on what He meant by the Sabbath being made for man. Either would have immediately made sense. Instead, **Jesus their master declares this to be the ultimate reason and conclusion: He is Lord of the Sabbath.** This would make better sense when Jesus himself demonstrates what this declaration means for His disciples, the Pharisees, and the rest of the following crowds.

And so we proceed into the fifth and last in this series of confrontations. We will have not only heard Jesus' teaching about His relationship with the Sabbath and the Law, we also witness Him display and apply it powerfully before all the people. We see this culminate in Mark 3:1-6, **¹ Again he entered the synagogue, and a man was there with a withered hand. ² And they watched Jesus, to see whether he would heal him on the Sabbath, so that they might accuse him. ³ And he said to the man with the withered hand, "Come here." ⁴ And he said to them, "Is it lawful on the Sabbath to do good or to do harm, to save life or to kill?" But they were silent. ⁵ And he looked around at them with anger, grieved at their hardness of heart, and said to the man, "Stretch out your hand." He stretched it out, and his hand was restored. ⁶ The Pharisees went out and immediately held counsel with the Herodians against him, how to destroy him.**

It was the Sabbath again and Jesus was found in the synagogue. The Pharisees were present again watching and waiting for another opportunity. This time it could be Jesus who breaks the Sabbath by healing a man with a shriveled or dried up hand. So Jesus calls the man to come and he does. Then Jesus asks a question: verse 4, "Is it lawful on the Sabbath to do good or to do harm, to save life or to kill?" Jesus now turns the accusing question of the Pharisees on them. Now it is their turn to answer. It should not be a difficult question. The obvious answer is to do good and to save life. It should always be lawful, on any day, even on the Sabbath, to do good and to save life. To do harm and to kill are against the law regardless of what day. **But they were silent.** Their silence exposed their hard and corrupt hearts. Their silence revealed their misunderstanding and misuse of the law with their legalistic mindset. Jesus **looked around at them with anger, grieved at their hardness of heart.** Out of their silence, the Son of Man, the Lord of the Sabbath, commands the man to stretch out his withered hand, and he obeys, and his hand is restored. **Jesus heals and restores the needy yet humble and obedient man on the Sabbath.**

This is part of what Jesus meant when He said, as the Son of Man, He is also lord of the Sabbath. His ultimate reply to the Pharisees was not only to declare that He is Lord of the Sabbath and that He is greater than the Law; He also proves it with this powerful miracle on the day of Sabbath itself. These two accounts in Mark point us to this overarching truth: **Jesus can save what the Law cannot.** The Sabbath may give temporary physical rest but only Jesus can provide true spiritual and eternal rest. The Law may allow provision of food to priests or to persons traveling through fields as we have seen. But Jesus is the Bread of life sent by the Father to satisfy our spiritual need and hunger. The Law and the Sabbath cannot heal and restore a sick person, only Jesus can do that. More importantly, the Law cannot justify and save sinners, only the Son of Man and the Lord of the Sabbath can. The Pharisees believed and taught that their works of the law would give them a good standing with God and justify them in His sight. They were completely wrong. Only faith in Jesus will be able to do that.

Since only Jesus can save what the Law cannot, we should always turn to Him. We must repent of our own sins of legalism. Ask forgiveness from God for our moments of self-righteousness and self-reliance. Maybe there were times we treated spiritual activities such as church and Sunday school attendance, personal Bible reading, or doing evangelism with a legalistic mindset? We should remind ourselves that we do these things not to be saved or made right with God but because we already are. We should practice them in obedience out of love and gratitude to our Lord and Savior. Have we as a church consistently pointed each other and those outside to Christ's sufficient work on the cross for our salvation? Or have we unintentionally or unconsciously introduced some kind of good work into the equation? We should correct and watch out for one another.

At the end of our passage, we see the Pharisees were so outraged at Jesus that they form an alliance with a political group they most likely hated: the supporters of King Herod. This becomes a turning point in the gospel of Mark: the Pharisees will still be following Jesus but from here on they will be plotting and seeking to kill him. They have decided to do harm and to kill. Jesus has come to do good and to save life by laying down his own. Are we true and faithful followers of Christ today? The disciples and the man with the withered hand humbled themselves, heard Jesus' words and obeyed them. Are we humbly, lovingly, joyfully, and faithfully seeking and obeying the commands of our Lord and Savior? Or are we becoming apathetic or lazy in doing so? Wake up from spiritual slumber and laziness. The Lord of the Sabbath bids us also to do good and to save life. And if you are here and you are not yet a follower of Jesus, heed His call to come to Him and be restored. Do not harden your heart, repent of your sins, come and put your faith in Him. Your good works cannot save you. Only Jesus can. Let us pray.